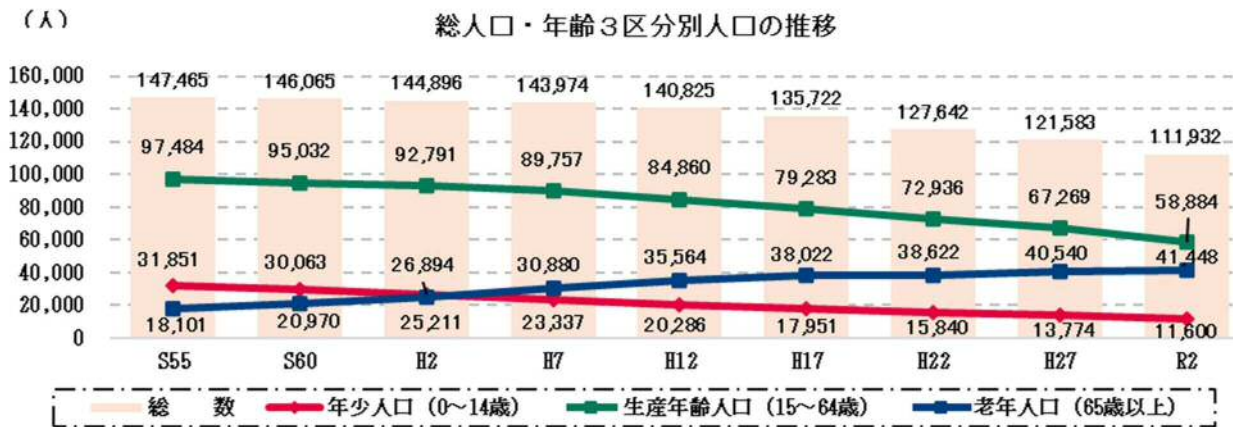


1 人口の推移と分析

① 総人口・年齢3区分別人口の推移



- ・市の人口は、昭和30年をピークに減少し続けている。
- ・老年人口は増加し続け、平成2年から平成7年までの期間に年少人口を上回り、生産年齢人口との差が縮小している。

【出典：国勢調査（総務省統計局）

(S55~H22は原数値、H27とR2は不詳補完値)】

※ S55~H22は、年齢3区分別人口に年齢不詳者が含まれていないため、総数と一致しない。

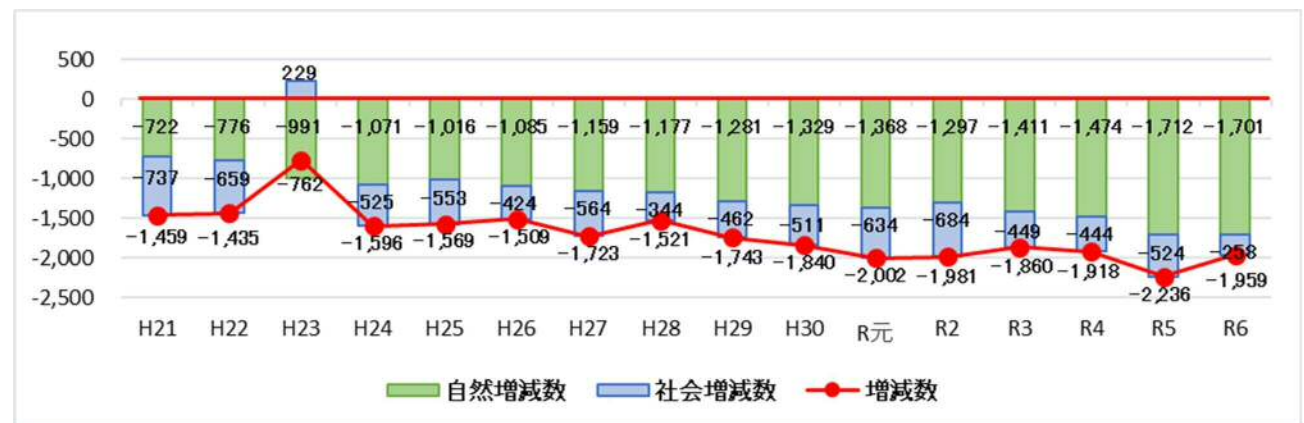
② 自然増減と社会増減

ア 自然増減

- ・平成23年までは、出生者数が800人を超え、自然減は1,000人未満で推移していた。
- ・平成24年以降は、出生者数の減少と死亡者数の増加により、自然減が拡大している。
- ・令和4年以降は、出生者数が500人を下回っている。
- ・令和5年以降は、死亡者数が2,000人を超え、自然減は1,700人超となっている。

イ 社会増減

- ・平成23年は、東日本大震災の影響により転入者が増加し、229人の社会増であった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2・3年は外国人転出者が増加した。
- ・令和4年以降は、外国人転入者が増加に切り替わった。
- ・令和6年は、社会減数が平成23年以来最も少ない258人であった。



【出典：岩手県人口移動報告年報第10表岩手県人口移動一覧表（岩手県ふるさと振興部）】

※ 岩手県人口移動報告年報の統計期間は、10月1日から翌年9月30日までである。

2 人口の推移から想定される地域の将来と今後の方向性

- ① 少子高齢化社会の進展と東京一極集中の継続による地方の人口減少
- ② 人口減少による労働力不足と消費者数の減による経済活動の停滞、縮小
- ③ 経済規模の縮小による生活関連サービスの廃止・撤退や道路、水道などインフラ、地域公共交通の維持困難化
- ④ 児童・生徒数の減少による学校の統廃合と地域コミュニティの維持困難化
- ⑤ 市の魅力や活力の低下による、人口減少の加速化

⇒ 人口減少のスピードの抑制と人口が減少しても活力のあるまち、地域づくりのための施策を展開する必要がある。

3 将来展望人口

人口減少の抑制と人口が減少しても活力のあるまち、地域づくりを進めるためには、行政・市民・民間事業者・各種団体など多様な主体が連携・協力し取組を進める必要がある。

総合計画の重点プロジェクトに掲げる施策を推進することで、人口が減少するスピードの抑制を目指す。

